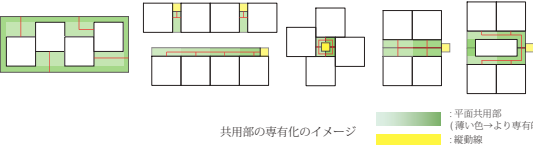


団地の記憶と集合住宅の集積

- 高度経済成長期以降の集合住宅の共用部の類型化と団地再生の手法に関する研究 -

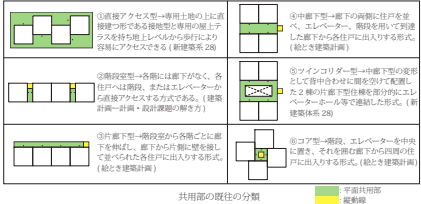
研究目的

今日、集合住宅の設計は共用部の使われ方に重きが置かれることがある。実際に建築家が建てている集合住宅には単に住戸の配置だけで決められない共用部分の使われ方があるとともに、私はそこに価値があると思う。一般的なものよりむしろそれ以外に興味があり、人間と人間とが、孤立しつつある価値観をつなげるような空間を再構築し、団地再生の手立てとすることを目的とする。前提として既存団地は階段室型で反復された住戸で構成される概ね、1970年代以前に建てられた住棟のことを指す。本研究ではこれを基本的な団地とする。団地は現在の集合住宅の派生型であると考えられ、集合住宅の居住形態が変化し、住まい手が多様化している。そこには歴史が存在していて、断絶されている関係性ではない。そこで団地再生の手法として高度経済成長期以降の集合住宅の共用部の類型化を図ることで現在の団地のあり方について再定義できればと考えている。



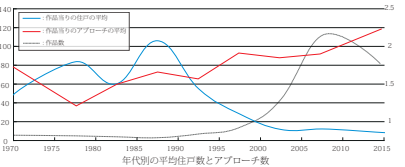
分析 1/ 既往の分類における類型化

調査した結果、幾つかのアクセス方式の組み合わせが多く、アクセス方式による分類は既往の分類(図2)により分けた。既往の分類での分析は近年につれて複雑化している。この複雑化は単に抽出数の多さではなく、ライフスタイルの変化や集合住宅の所有の仕方の変化等が理由として挙げられる。そして既存団地にはその多様化からは大きく離れていると仮定する。共用部が多様化することで現在団地で抱えている問題が解決できるとともに団地における共用部の再考に結びつくと考えられる。既往の分類では下図のように団地の共用部の分類は要素が多く含まれていると考える。団地には階段室しかないのに対し、「赤羽の集合住宅」はメインはコア型であるが中廊下型、ツインコリダー型の要素も含まれ、共用部が開放したような印象を受けた。単一の共用部では限られた機能が使われ方となる。しかし複雑化した共用部は様々な価値を持つことになると思う。



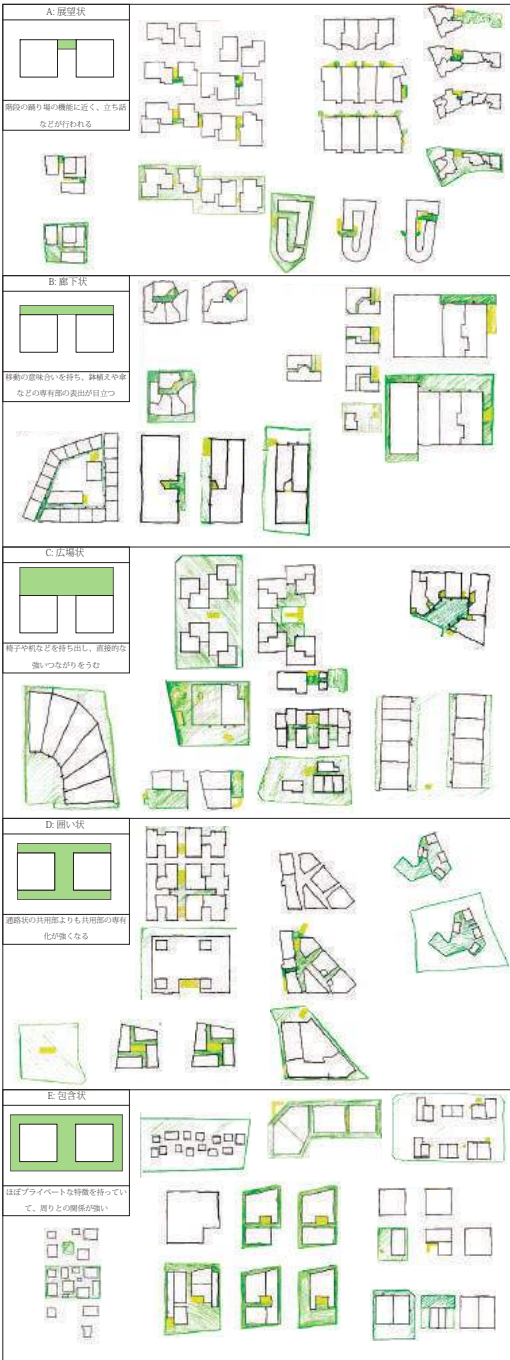
表グラフから1作品当りの住戸数は減っている事がわかる。しかし1作品当りのアプローチ数が近年になるに連れて多くなっている。住戸数とアプローチ数は住戸が多いほどアプローチ数が増えることはなく、少なければアプローチ数の複雑化を見込めることがわかる。設計において少ない住戸数は要素を掛け合わせるによってコミュニティの発生になっていると考えられる。

年代別	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015
平均住戸数	44.18	43.9	40.25	39.6	34.85	28.07	17.77	12.26	11.09	
平均アプローチ数	1.67	1.30	1.50	1.30	1.30	1.30	1.30	1.30	1.30	1.30
住戸数/アプローチ数	26.4	33.8	26.8	30.5	26.8	21.6	19.1	19.1	19.1	19.1
住戸数/アプローチ数	26.4	33.8	26.8	30.5	26.8	21.6	19.1	19.1	19.1	19.1
住戸数/アプローチ数	26.4	33.8	26.8	30.5	26.8	21.6	19.1	19.1	19.1	19.1
住戸数/アプローチ数	26.4	33.8	26.8	30.5	26.8	21.6	19.1	19.1	19.1	19.1
住戸数/アプローチ数	26.4	33.8	26.8	30.5	26.8	21.6	19.1	19.1	19.1	19.1
住戸数/アプローチ数	26.4	33.8	26.8	30.5	26.8	21.6	19.1	19.1	19.1	19.1
住戸数/アプローチ数	26.4	33.8	26.8	30.5	26.8	21.6	19.1	19.1	19.1	19.1
住戸数/アプローチ数	26.4	33.8	26.8	30.5	26.8	21.6	19.1	19.1	19.1	19.1



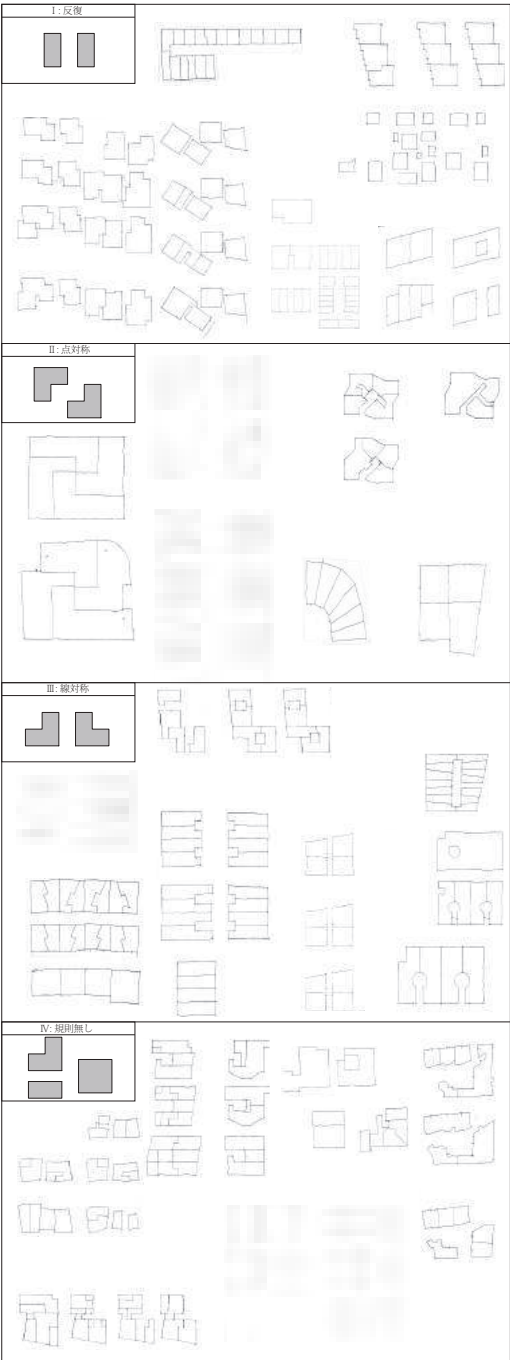
分析 2/ 共用部の形状による類型化

共用部には様々な空間特性がある。共用部の形状によって使われ方が異なる。それらの形状によって5つの分類をすることで各々の集合住宅が持つ共用部の特性として整理する。共用部の使われ方の意味を持っていて、共用部比率や面積によって分類する。それぞれの分類は人の暮らし、コミュニティに直結している。基本的に団地の共用部はAの屋敷型に分類される。



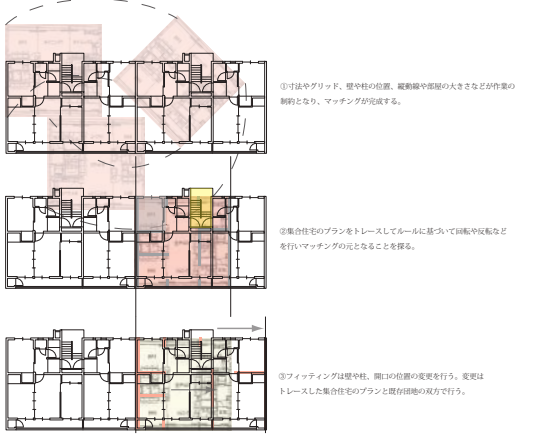
分析 3/ 住戸の配置関係における類型化

住戸の配置には様々な関係性を持つ。住戸の配置関係を4つの要素に分類する。人が生活をする住戸は共用部のかたちへ大きく依存する。住戸と共用部には強い関係性があると考えられる。コミュニティの構成は住戸の配置に影響していて、基準となる点や軸が存在しており、それらが住戸の配置へとつながっていく。また住戸の配置関係は設計において重要な要素ともなる。単純な住戸の配置は設計がしやすい性質をもっている。基本的に団地の住戸配置はIIの線対称に分類される。



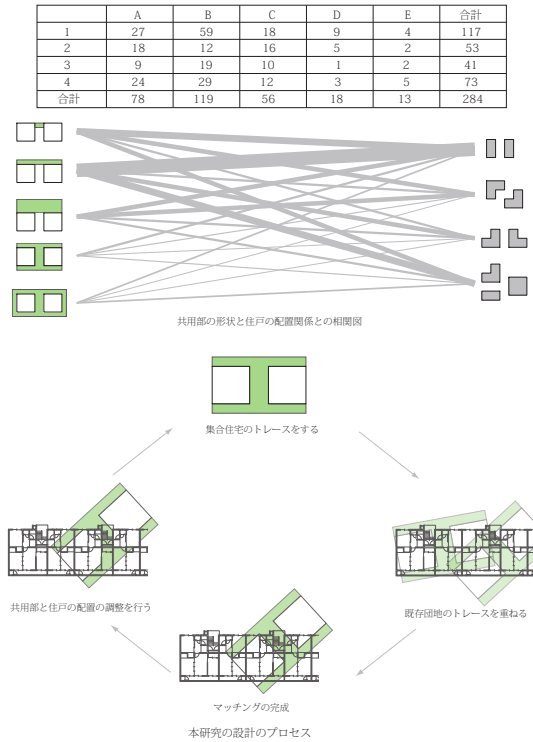
分析 4/ トレースによる既存団地へのマッチング・フィッティング

設計の第一段階として事例調査をすることは必要なことであると思う。そして既存団地にプランを直接当てはめることで本研究へと関連させる。この作業を「マッチング」とする。このマッチングをするにあたって自らルールを設けることになる。まずスケールは一致していることである。スケールは人の生活では重要度が高い。人が住むために絶対的なスケールは維持する。次に縦方向の動線を意識することである。既存団地のもととのコミュニティを継承する意味を持つ。そしてマッチングはいくつかの成立条件をつける。主に寸法やグリッド、壁や柱の位置、縦動線や部屋の大きさなどが成立条件とする。更に既存団地へ適合するために構造体である壁や床の移動、変更を行う。この作業を「フィッティング」とする。それらの作業から最終的な設計要素を拾い上げる。

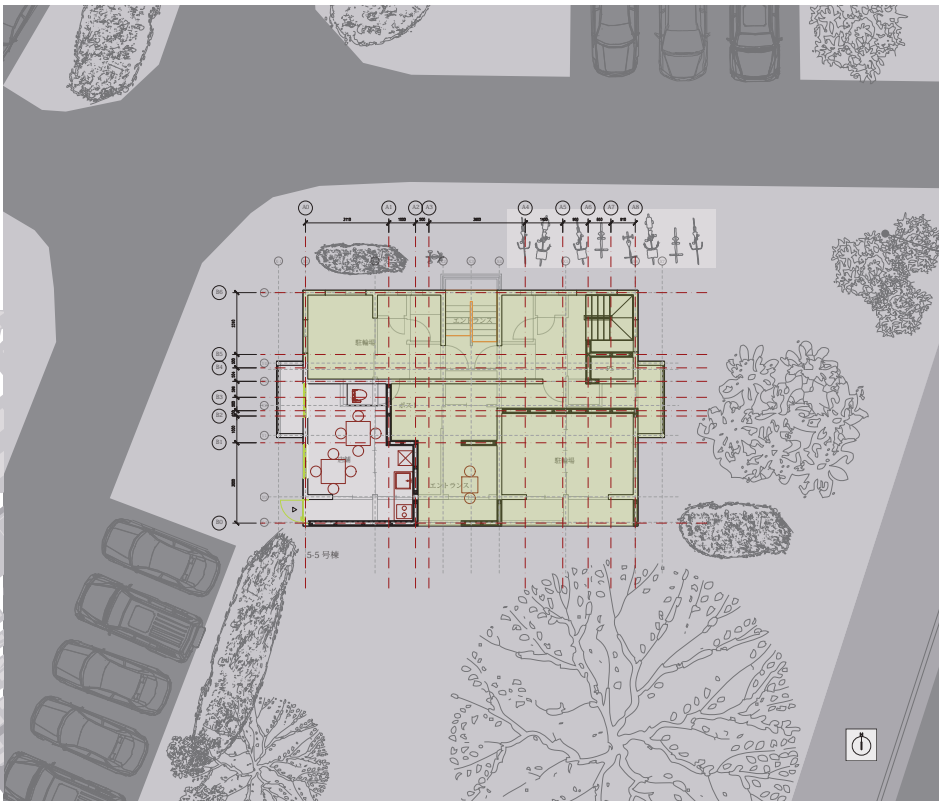
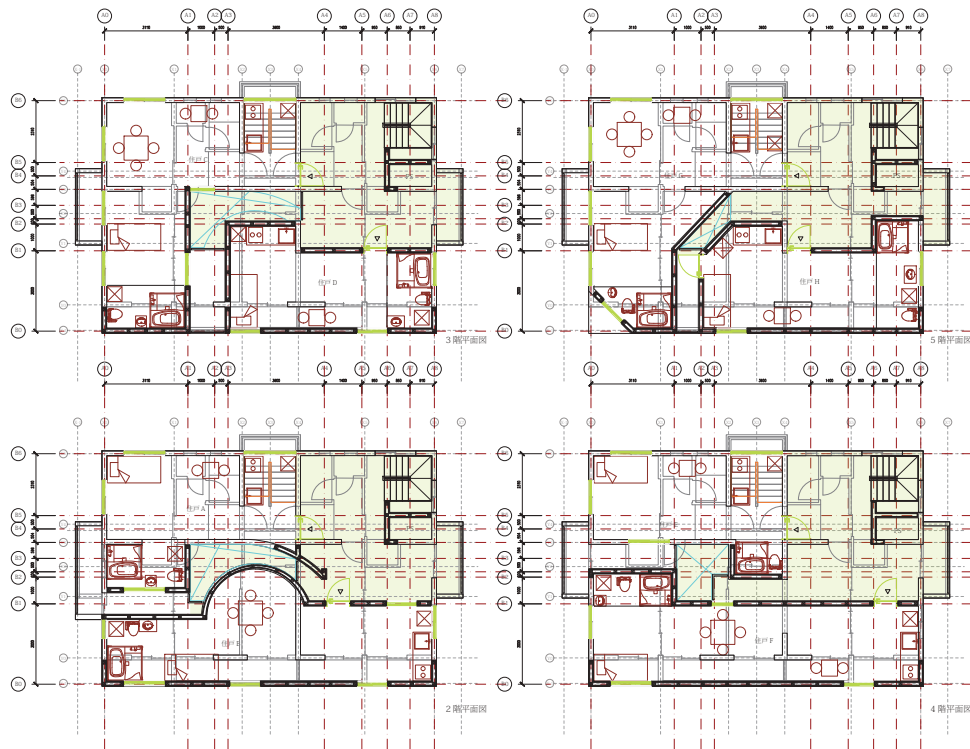
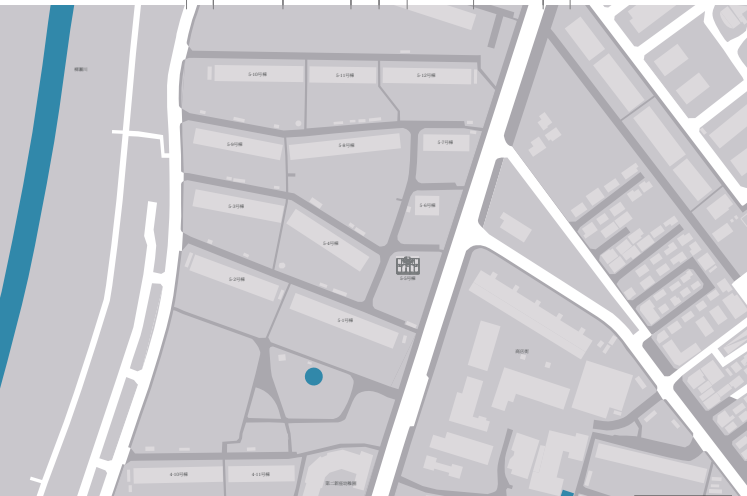
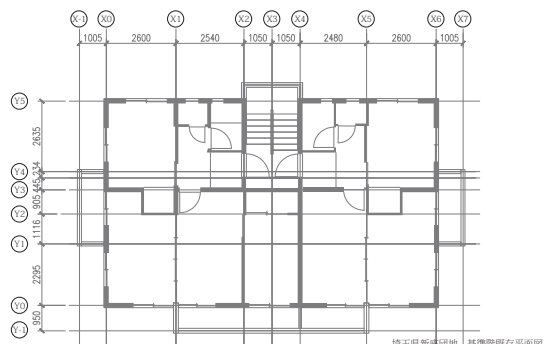


結論

設計は表題通り団地の共用部及び住戸の再配置の設計とする。5のトレースや6の考察でも述べた通り、住宅の集合体は住戸の配置と共用部によって構成される。単に共用部の面積追加ではなく、住戸の配置の再構築まで行う。本研究では調査した 285 作品の中から設計に相応しいものを恣意的に選び設計とする。5のトレースによって得られた団地と集合住宅のマッチング及びフィッティングからその新しい団地を更に作業を繰り返すことができることになる。そしていくつかのプランを重ねることによってオーバーフローさせる。このように設計した団地は共用部の要素が複雑化し、団地に新たな空間をつくる。



・埼玉県新座団地の概要
竣工は1971年。新座団地は柳瀬川が西側を流れ、北側には志木ニュータウンがあり、周辺には高校、大学に囲まれているような位置関係である。もともと新座団地は新田開発された敷地で、公園となっている場所は緊急時の貯水場としても機能している。水があることで人が生活できると共に水害に悩まされた歴史もある。水を拝めるように周辺には神社も存在する。団地内の公園は日常的に遊び場として使われていることと非日常的な水害から守られている安心感が両立する特殊な場所でもある。団地内には他の木が植えられていて、自然環境は豊かな上、公園が点在していて、商店街や図書館までもあり、住むための環境が十分整っていると考えられる。



▲3階のバルコニーから河原を見下ろす



▲2階のバルコニーから河原を見下ろす

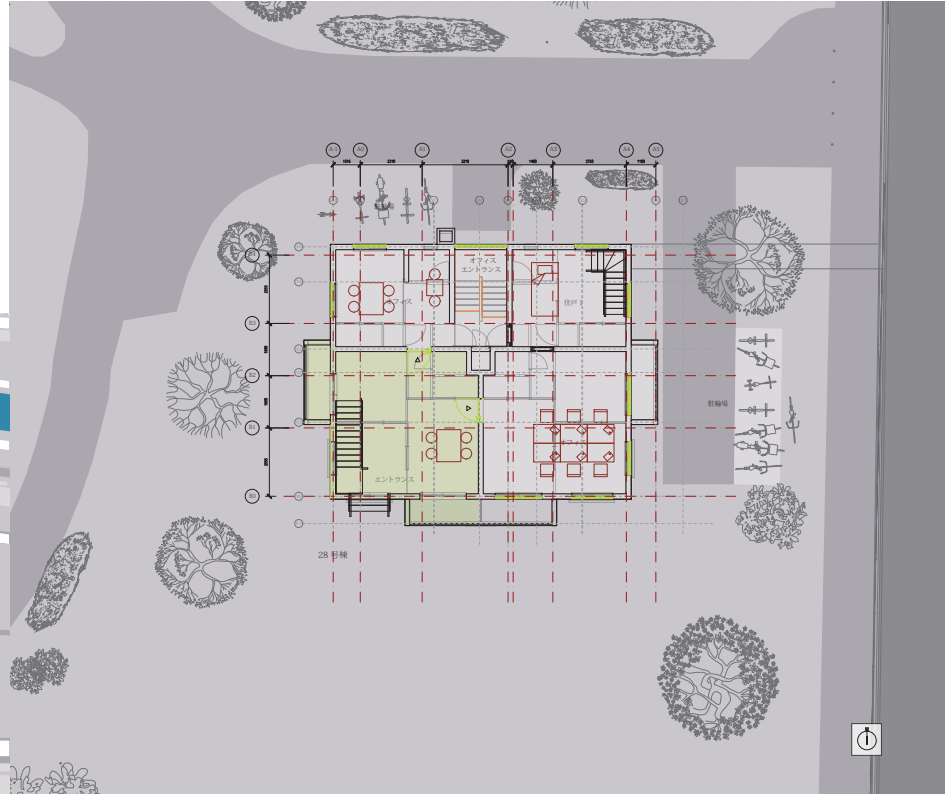
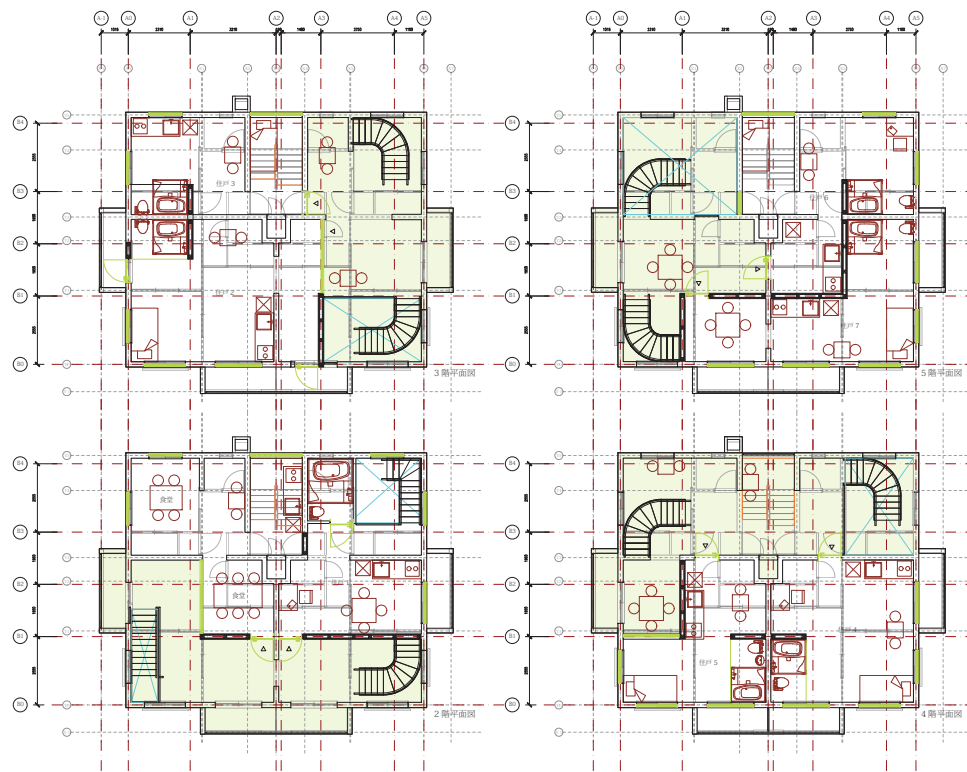
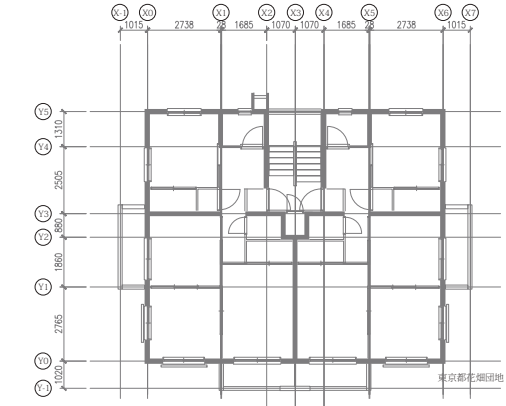


▲2階からの階段を見下ろす



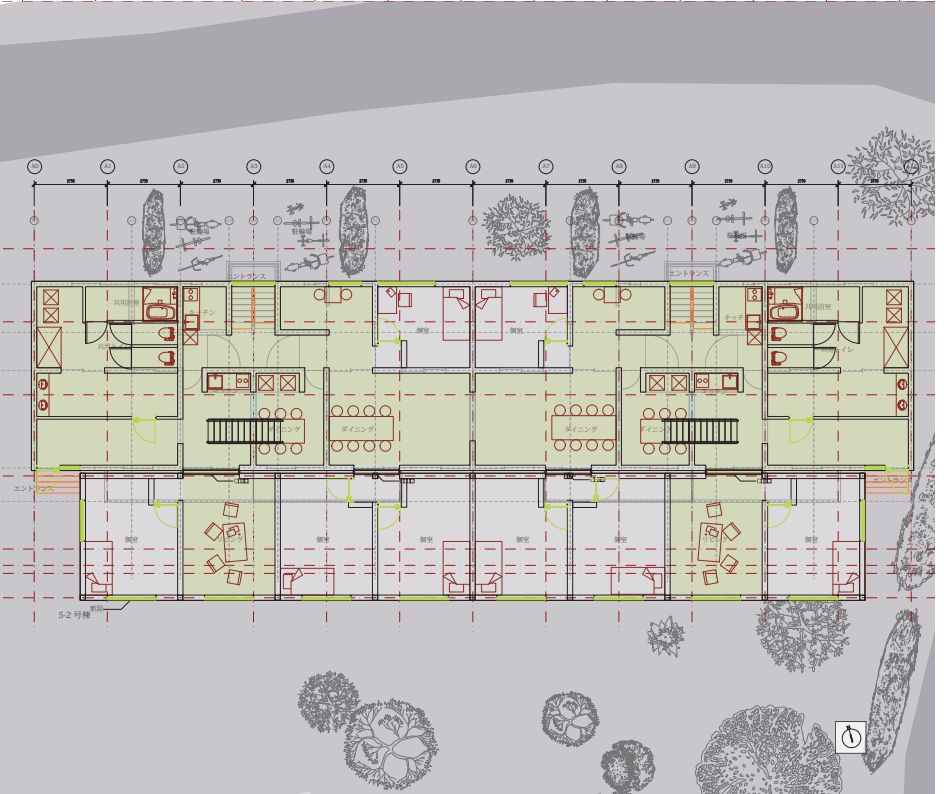
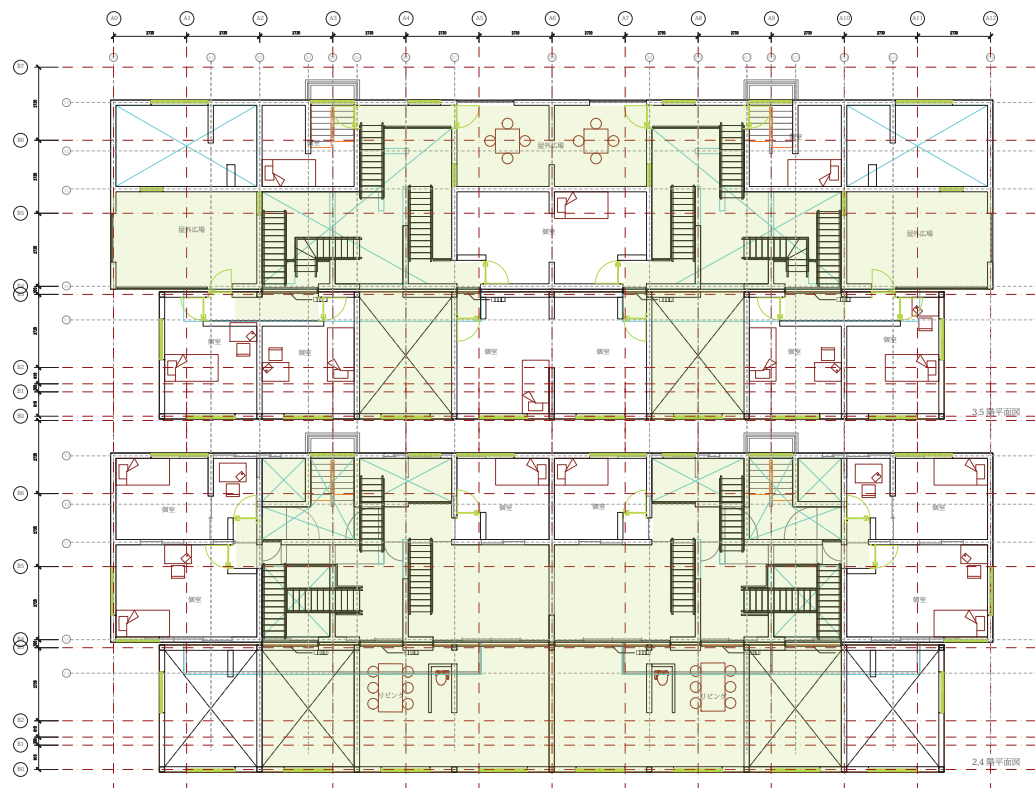
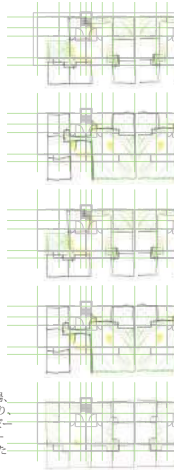
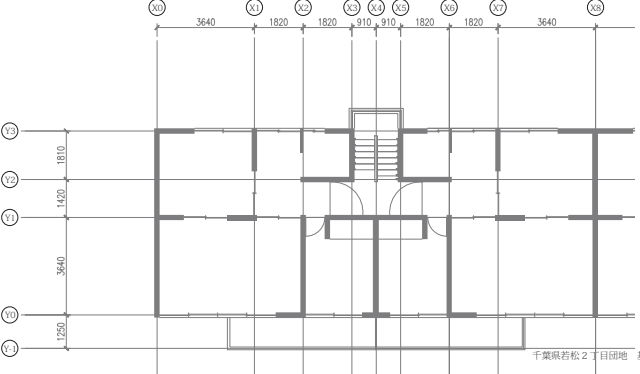
▲階段室から共用廊を見下ろす

・東京都花畑団地の概要
竣工は1966年。花畑団地には花畑公園があり、その西側に足立区制50周年を記念して建設された「花畑記念庭園桜花亭」は、日本文化を身近に観しめる空間が広がる。三波石をふんだんに使った高さ4メートルの「大滝」は、石積の間をほとぼる水流が流れて夏の夕涼みに最適である。また、庭の入口にある「雪見灯籠」は冬になると雪化粧し、美しい景観を生み出す。花畑団地には子どもを持つ家庭が過ごす環境が整っている。「杉の子幼稚園」や「花畑西小学校」をはじめとした教育機関が近くにある。樹木は多くなく、芝生が目立ち、他の団地とは相違がある。設計敷地の対面する27号棟は2012年に行われた「UR 団地再生デザインコンペ」において Camp Design の藤田雄介氏が最優秀賞を受賞し、竣工した住棟がある。





千葉県船橋市若松2丁目団地の概要
複合商業施設のららぽーと TOKYO-BAY を始めとして、インテリア販売店の IKEA 船橋、船橋競馬場、船橋オートレース場などは現在非常に賑わっている。しかしこのようなレジャー施設は流行性があり、時代と共に変化してきた。ららぽーと TOKYO-BAY は船橋ヘルスセンターの跡地、IKEA 船橋はららぽーとスエーデン・ドーム SSAWS の跡地である。そして船橋オートレース場の跡地には現在ロジックスペースパーク船橋が建てられ、大型物流施設となっている。また敷地の東には谷津干潟、西には三番瀬といった二つの干潟に挟まれていて非常に海と関係が深い敷地である。



▲1 廊下用キャッチと踊り上りする階段



▲3 居住空間内にも



▲階段への視線を調整する踊り上り階段



▲1階のダイニングとキッチン